

会 報

79号



函館の歴史的風土を守る会会報

No.79 H18. 3. 15

発行所 函館の歴史的風土を守る会

事務局 函館市五稜郭町43-9

五稜郭タワー株式会社内

電話(0138) 51-4785

印刷所 (有)三和印刷 電話 45-0845



賑わった新春パーティー

受賞者(左より) 澄様、外山(代理)様、中村様

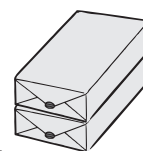
「第28回 函館の町並みを美しくする新春チャリティーパーティー」が、平成18年2月24日五島軒本店で開催された。

実行委員長に五稜郭タワー(株)社長中野 豊氏、副実行委員長中島真紀子氏のもと約250名余の参加者で賑わった。

恒例の“歴風文化賞”(第23回)はNCV社との提携によるビデオが放映され好評であった。



チャリティーパーティ・オークションの商品のご提供
ありがとうございました



第28回函館の町並みを美しくする新春チャリティーパーティへの商品のご提供に御礼申し上げます。

五稜郭タワー株式会社、中島内科循環器科医院、株式会社元町マリンハウス、平野建業株式会社、株式会社オオタカ函館、函館東興株式会社、函館トヨペット株式会社、函館山ロープウェイ株式会社、北海道コカコーラボトリング株式会社函館営業所、株式会社ムロタ、リーブズ・ハコダテ、サッポロウエシマコーヒ株式会社函館支店、花舞の会、斉藤建設、小田島水産食品株式会社、株式会社五島軒

(順不同・敬称略)

平成17年度 歴風文化賞（第23回）

原風景

＝宣言文＝

ひお くび みさき
「汐首岬」

函館市汐首町

大森浜から下海岸を望むと、亀田半島に突き出た汐首岬がある。

汐首岬は北海道と本州を結ぶ最短地点であり、下北半島の山並みを間近に望むことができる。

岬周辺は暖流の黒潮と寒流の親潮が交わる好漁場となっていて、高台にある汐首岬灯台が船舶の安全を守っている。

近くには「幻の鉄道」と言われる、旧国鉄戸井線の遺構であるコンクリート製の美しいアーチ型橋が数多く残っている。

函館市街から遠く望む汐首岬の風景、汐首岬灯台と戸井線の遺構は人々の思い出と共に函館の原風景でありここに宣言する。



保存建築物

すみ
澄

のぶかず
信一

邸

函館市青柳町36-2

この建物は昭和9年の大火後、11月に木造2階建専用住宅として建築された和風の住宅である。

下見板張りの外壁・窓廻りも創建時の姿を忠実に伝えている。

木材は構造・内装材共、檜（ヒノキ）・杉（スギ）・樺（ケヤキ）を使用、室内壁は「しっ

くい」、天井は杉板、建具と玄関・廊下・階段等の照明器具は当時のまま保存・活用されている。

玄関右手の応接間は洋式でドア・窓・壁・天井・コーナーの飾棚等も当時のままであり、窓の型ガラスは現今入手困難な貴重なものである。

また、併設されている土蔵は大火後、鉄筋コンクリート造地下1階地上1階建で建てられ、屋根は陸屋根（平らな屋上）で、2階書院造りの和室から出入りできるように造られている。

この住宅は創建当時の姿で大切にしっかりと保存されており、昭和初期の和風住宅の歴史を知る上で貴重な建築物である。

保存建築物

どやま ともえ
外山 友江 邸

函館市千代台町15-17

この建物は昭和9年に質店として建築され、木造2階建の和風住宅と石造3階建の蔵で構成されている。全体的には下見板張りの外壁、漆喰塗りの蔵が創建時の姿を美しく現在に伝えている。

玄関左手には昔勉強部屋として使われていた洋室がある。それ以外は全て和室であり襖・障子の部分が多い開放的な造りとなっている。また、太陽光による室内の劣化を防止するためか、南側に窓が少なく北側に大きい開口部を設けているという特徴がある。石積みの3階建の蔵は丈夫な梁で支えられていて、湿気がこもらないように床には通気口が設けられている。

近代化が進む本町地区に近接しているが、しっかりと保存されており昭和初期の和風住宅と蔵の歴史を知る上で貴重な建築物である。



再生保存建築物

LEAVES・HAKODATE
(りーぶず・ハコダテ)

函館市大手町3-8 中村 秀規 様

この建物は明治45年、木骨土蔵2階建の蔵として建築された。近年まで倉庫として使用されていたが、平成15年に修復し、飲食・洋服雑貨店として再生された。外観はほぼ創建当時のままだと思われ、黒色の瓦屋根と1階部分のグレー、2階部分の白塗りの壁がマッチ

しており、どっしりとした重量感の中に繊細な美しさを感じさせる蔵である。

室内の柱・梁等も創建時のままであり、建物の隅部分には変形を防止するための鉄製の火打ち金物等も見ることができる。2階の吹き抜けになっている小屋組の上部には棟札があり、明治45年に建ったことや家主・大工・左官の名前が記されている。

函館における明治末期の蔵の歴史を知る上で、貴重な建築物である。

歴風文化賞選定基準

1. 建造物自体の貴重性
2. 持ち主が長年保存への努力を続けている
3. 景観への寄与
4. 歴史的性
5. 地域の町並みや社会全般への波及効果が大きい
6. 諸々の制約の中で創意工夫が顕著である

歴風会と共に学んだ函館観光の課題

実行委員長あいさつ



開宴の挨拶をする正・副実行委員長

函館市民の特徴ある活動として全国的に注目されてきた「歴風会」は、間もなく設立30周年を迎えようとしています。

私が函館に参りました昭和51年、まさにこの歴風会が生まれるきっかけとなり

ました「旧渡島支庁庁舎」の移転問題で保存運動が大きな市民運動になろうとしている時でした。

なぜ保存しなければならないのか。当時事務局担当

実行委員長 中 野 豊
副実行委員長 中 島 真紀子

の工藤光雄さんには保存と関連し、これからの函館観光のあり方・考え方について多くを学ぶことが出来ました。

この運動を通して、多くの市民が、古い街並みがいかに函館独特の様式であり文化であるかの認識を深め函館を思う気持ちを大切にしてきたことと思います。

このことが、今日の函館観光の高い評価の原点にあることは間違いないことと思います。

この特徴ある函館市民の歴風会活動を、市町村合併により広域化した「函館」にどのように視野を広げていくかということ、30周年を境にして、この活動を更に地域に根を張るために、次世代に引継いでいくかという大きな課題があるように思います。

本日の集いが、それらの課題を乗り越えて歩んでいくためのきっかけになることを実行委員会のメンバーとして願っております。

受賞者代表あいさつ



本日はこのような賞をいただき本当にありがとうございます。受賞者を代表してお礼申し上げます。

今回受賞した建物は飲食店及び雑貨店として利用しております。店を開店するにあたって、「周りの環境に溶け込むような店作り」ということ、それと「できるだけ建物の魅力を損ねない店舗設計」をコンセプトとして考えておりましたので、このような賞をいただけてとても喜んでおります。

函館はたいへん好きな街で、高校が西高だったこともあり、特に西部地区には私なりの思い出もあります。

高校を卒業してから20年ほど東京で生活し、6年前にこちらに戻ってまいりました。東京にいた時に、仕

リーヴズ代表 中 村 秀 規

事や休暇などで日本各地や海外へ行く機会が多かったのですが、さまざまな国や街を訪れ、「街の個性」ということを考えた時に、日本の、どこへ行っても同じような街の風景を見て、あらためて函館という街の魅力を再認識したようにも思います。

この函館の街並ができるだけ変わらず、残ってほしいと自分勝手に思うのですが、難しい問題もたくさんあり、なかなか容易なことではないことも承知しているつもりです。

お恥ずかしい話ですが今回はじめてこのような賞の存在を知りました。貴重な函館の街の風景を残していこうという、関係者の方々のご努力には敬服いたします。微力ながら何かお手伝いできることがあれば、ご協力させていただきたいとも思いました。もちろん、受賞した建物は今後も大切に使っていきたいと考えております。

本日は誠にありがとうございました。



賑わう会場風景

チャリティーパーティーの運営と感想

運営委員 対馬 誠



謝辞を述べる 函館市都市建設部 野々宮部長

思います。来年度はぜひ旧4町村の建物も含めて推薦して頂きたいと思います。文化賞の候補については例年通り、9月に会員の皆様全員に歴風文化賞の推薦のはがきを郵送しますのでよろしくお願いします。保存建築物、再生保存建築物の建築年代については昭和10年以前で市の伝統的建築物・景観形成指定建築物に指定されていない建築物を対象に選考しています。原風景、団体等についても多くの推薦をお願いします。

今年度も会員の皆様の御協力をよろしく御願いたします。

2月24日、チャリティーパーティーを無事終了することができました。中野実行委員長、中島副実行委員長の協力もあり、250名を超える盛大な表彰式、パーティーとなりました。当日の運営面では受付、チャリティー商品の受け渡し等でアコロの会の皆様にも毎年お世話になっており、深く感謝致します。

歴風文化賞は、函館市の合併で広範囲な選考になりましたが、原風景の汐首岬以外、旧4町村からの推薦はありませんでした。戸井、恵山、鍛法華、南茅部地区には歴史的な漁家住宅等がまだ多く残されていると



乾杯の発声をとる 北原善通市議会副議長

第3回 ふるさと写真展 開催



多くの観光客も足を止めた会場

歴風会主催の小学生・中学生による「第3回ふるさと写真コンクール」が、去る2月18日より21日まで、函館駅2階「イカすホール」で開催された。

1月15日〆切で各学校を通じて募集された95点の作品を2月5日運営委員による審査会で小・中学生別の入選者を決めた。

2月19日入選者と父兄や関係者が多数参列して、展示会場で表彰式が行われた。

第1回からこの事業を担当した当会の吉村副会長は『応募数は大体100点前後で推移しているが、函館市の歴史に

ついて新発見する楽しさの中で将来の“町並み保存運動”に連なることを期待したい』と述べ、期間中毎日会場につめた石黒会員の話によれば『駅2Fの場所柄、旅行者の来場数が目立ったが、函館のPRに一役貢献したと思う。生徒が参加すること、生徒のシャッターチャンスのすばらしさに感動したと云う感想の参観者が多かった』という。受賞者は次の通りで、この作品群は交通局のご好意で市電2台に展示され、4月10日まで運行される予定である。



表彰式で講評する清野会長

《入賞者氏名》（敬称略）

- | | |
|--------------------------|----------------|
| ▶金賞 水島裕美（函館・あさひ小4年） | 福士穂野花（付属函館中1年） |
| ▶銀賞 東実杜樹（函館・弥生小6年） | 森岡佳介（函館・亀田小6年） |
| 紺地美里（函館・中島小6年） | 石崎 東（七飯・七重小3年） |
| ▶銅賞 工藤隆成（函館・鍛神小5年） | 東実杜樹（函館・弥生小6年） |
| 水島裕美（函館・あさひ小4年） | 石崎 東（七飯・七重小3年） |
| 栢本夏穂（函館・旭岡中1年） | |
| ▶歴風会長賞 佐藤黎奈（函館・亀田小6年） | |
| ▶交通局長賞 家代岡才文（函館ラ・サール中1年） | |



トピックス

国登録有形文化財に答申された熊谷家！

平成18年1月21日付道新によると旧上磯町の熊谷家が国の指定を受けた。道南では中華会館・五島軒本店等に続く10件目の指定で、旧上磯町では最初である。当会は平成10年歴



古いたたずまいの熊谷家の内部

風文化賞を顕彰していた。

熊谷家は当主孝泰氏の曾祖父にあたる宇兵衛氏の居宅で、幕末期の在地地主の居宅をほぼ忠実に



熊谷宇兵衛画像

伝えているのが評価されたようだ。

因みに宇兵衛氏は嘉永4年（1851）20才で父親と松前から移住し、「宇兵衛堀り」と呼ばれる用水路を開削して田畑の開発や植林事業に努め明治25年緑綬褒賞を受けている。村政や病院・学校等の世話役を永年勤めた当町開拓功労者の1人であった。

新五稜郭タワー・オープン



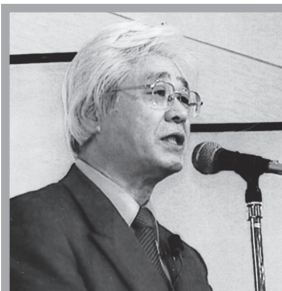
新タワーからみた旧タワー

平成16年11月より新築工事に着工した新五稜郭タワーは、平成18年4月1日、2層の展望台と2倍の高さを持って第一次オープンをした。今後旧タワー解体と跡地に「アトリウム」の完成をみて本年12月に全面オープンを計画している。五稜郭築城100周年を記念した旧タワーの建築から42周年目にあたり、観光客のみならず、多くの市民から新しい函館市の名所の出現を賞讃の眼差しで迎えられている。新旧のタワーの比較は次表の通り。

	現タワー	新タワー
開業	昭和39年12月1日	平成18年4月1日予定
敷地面積	1,209㎡	2,938㎡
延床面積	2,455㎡	5,706㎡
規模	地上3階建	地上6階建て
高さ	60m	107m(避雷針高) 98m(全高)
展望台高さ	45m	6階 90m 5階 86m
展望台面積	142㎡	6階 523㎡ 5階 363㎡
収容人数	約100名	約500名
エレベーター	28人乗り×1基	30人乗り×2基
所要時間	約30秒	約30秒



堂々とした偉容の新タワー（右）



函館の歴史的風土を守る会 会長 清野 恒 夫

1月23日深夜、突如として脳出血にみまわれ18日間の入院を余儀なくされました。新春チャリティーパーティーの準備のさなかであり運営委員各位には大変な迷惑をおかけいたしました。幸いにも現在のところ後遺症は感じられず生活しています。今後の活動については病状の推移と医師の診断によるものと考えております。お見舞い、励ましのお言葉をいただき、誠にありがとうございました。

30周年を迎えて

歴風会副会長 落 合 治 彦



◇第28回「函館の町並みを美しくする新春チャリティーパーティー」と第23回「歴風文化賞」贈呈式開催にあたり一言御挨拶申し上げます。

実行委員長に中野豊様（五稜郭タワー社長）、副実行委員長に中島真紀子様をお迎えした本日の表彰式に、御多忙のところ約250余名の御臨席をいただきました。主催者を代表し衷心より感謝申し上げます。又、オークションに協賛いただきました皆様、日頃歴風会の活動をご支援いただき厚く御礼申し上げます。

◇昭和53年（1978）4月、168名の創立会員を擁してスタートした当会も、平成20年に30周年を迎えます。

この28年間、90余件の表彰（保存建築物、約60棟、再生建築約30棟）、23団体と5個人の表彰、3件の特別賞を顕彰して参りました。

継続しております函館市への町並み基金の寄附も500万円を越えました。

反面、会員の高齢化現象に直面して、その数も半減しております。若いエネルギーの注入が急務であり、西部地区（函館市）から都市合併に対応した渡島圏へと視野を拡げた活動も不可欠となってきます。

先人達が灯した「函館の町並み保存」運動は全国の先駆け（魁け）として広く注目されている歴史と伝統を私達は厳しい現状の中で受け継がなければなりません。

特に先人達が大切に育んできたもの——他都市の保存運動との大きな差異——は、路地や長家があって、路面電車が走る町、静かなたたずまいの中で醸し出された特有の人情、生活そのものを大切にしていることです。私達はこの伝統こそ函館の文化として「子孫」に語り継ぐ貴重な遺産であると考えます。

30周年を迎えるにあたり、NCV(株)ニューメディア函館センターと協賛で「残したい函館」のビデオ制作と30周年記念誌「はこだての町なみ」第2号の発行を計画しております。

今後一層の御支援を心よりお願い申し上げます。

事務局だより

◆開港五都市全国大会

H18. 9. 29～10. 1 於長崎市

◆第29回 全国町並みゼミ

H18. 10. 6(金)～8(日) 於八女市（福岡県）

◆第24回 ナショナル・トラスト全国大会

H18. 11. 11(土)～12(日) 於鳥取市

「歴風会」に入会しませんか？

函館の歴史的風土をあなたと共に学び、知らせ、守って行きたいのです。

年会費 3,000円 団体会員年 5,000円

※お申込みは、石井 満 ☎(41)5126

※※ 編集後記 ※※

○中野・中島、正・副実行委員長の皆様ご苦勞様でした。厚く御礼申し上げます。

○1月末清野会長が緊急入院され、石井事務局長が奔走しましたが、無事会長も退院し第28回チャリティーを終了出来ました。

○本号の写真は上田邦孝氏、棚池義治氏、高島大賢氏、木下寿実夫氏、五稜郭タワー(株)殿、太田孝雄会員によりました。深謝。

○歴風会のホームページができました。

アドレス <http://www2.odn.ne.jp/hakodate/rekifukai/top.htm>です。（落合記）